

会 議 録

会議の名称	第1回 茨木市中学校給食審議会
開催日時	令和元年6月21日(木) (午前・ 午後 2時00分 開会) (午前・ 午後 3時40分 閉会)
開催場所	茨木市福祉文化会館 302号室
会長	桜井 政成
出席者	桜井 政成(会長)、小鶴 祥子(副会長)、村上 喜郁、 鹿島 あゆこ、橘 由紀、大島 亜希子、森下 美穂、下田平 敬子、 濱園 明洋、山口 正弘、城谷 敬子、松宮 正和、福田 真人、 東 真由美、加藤 三紀、金森 郁美 【16名】
欠席者	中村 愛、阪 和也、井上 行雄、岸本 済、村上 浩基 【5名】
事務局職員	福岡市長、乾教育総務部長、谷学校教育部次長兼学校教育推進課長、 堤学務課長、西村学務課参事兼保健給食係長、竹内学務課指導主事、 竹野学務課職員、山本学務課職員 【8名】
開催形態	公開
議題(案件)	I. これまでの経緯について II. 審議会の役割及び開催スケジュールについて III. 中学校給食実施方式の審議方法について
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・資料1 茨木市中学校給食審議会 委員名簿 ・資料2 茨木市中学校給食審議会 規則 ・資料3 茨木市における中学校給食のあり方について ・資料4 審議会及び検討会の役割と開催スケジュール(案) ・資料5 平成30年度調査結果の概要：平成30年度報告書抜粋 ・資料6 中学校給食の基本的な考え方(案)：平成30年度報告書抜粋 ・資料7 学校給食実施方式別の一般的特徴：平成30年度報告書抜粋
傍聴者	10名

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局 (堤)	<p>皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、第1回茨木市中学校給食審議会を開会させていただきます。</p> <p>それでは初めに、開会に当たりまして、福岡市長よりご挨拶申し上げます。</p>
福岡市長	<p>皆さん、こんにちは。市長の福岡でございます。本日は、茨木市中学校給食審議会ということで設置をさせていただきましたところ、委員の皆様におかれましてはご多忙の中、委員を引き受けてくださいます、そしてまた本日もご出席くださいます誠にありがとうございます。</p> <p>現在、茨木市の中学校給食ということでいきますと、選択制でのデリバリー給食が行われて7年目というところでございます。改めまして、この中学校給食のあり方について皆様にご審議をいただきたいということで、この審議会を設置させていただいております。</p> <p>これまでの経緯につきましてはまた後ほどご説明させていただきますけれども、この中学校給食に関しましては、安全・安心、子どもたちの健康、そして食育、あるいは地産地消といったさまざまなテーマがございます。本日、ご出席いただいております委員の皆様には、それぞれ専門の知識等々がおありかと思っておりますので、ぜひこの審議会で忌憚のないご意見を頂戴して、実りあるものにしていただければと思っております。</p> <p>引き続き、市のほうとしましても、この審議会の推移をしっかりと見守って対応を図っていきたいと思っておりますので、多数回、また長時間にわたるかと思っておりますけれども、おつき合いただきますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いたします。</p>
事務局 (堤)	<p>では、会議を始めさせていただきます。</p> <p>会議の議事進行は、会長が行うことになっておりますが、本日は会長が選出されるまでは、乾教育総務部長が進めさせていただきます。よろしくお願いたします。</p>
教育総務部長	<p>それでは、会議を始めさせていただきます。</p> <p>会議の進行でございますけれども、僭越でございますが、会長が選ばれるまでの間、議事を進めさせていただきますので、よろしくお願いたします。</p> <p>まず、本来であれば、委嘱状につきましてはお一人お一人にお渡しするのが本意ではございますけれども、時間の関係上、委嘱状を皆様のお手元</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>に置かせていただいております。ご確認いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>では、初めに私のほうから、委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思っております。大変失礼でございますが、こちらのほうから順番にご紹介をさせていただきます。学識経験者で、梅花女子大学食文化学部食文化学科教授の小鶴委員です。</p>
小鶴委員	よろしくお願いたします。
教育総務部長	続きまして、同じく学識経験者、追手門学院大学経営学部経営学科准教授の村上委員でございます。
村上委員	よろしくお願いたします。
教育総務部長	続きまして、関係団体推薦の方で茨木市社会福祉協議会、下田平委員でございます。
下田平委員	下田平です。よろしくお願いたします。
教育総務部長	続きまして、同じく関係団体推薦者の茨木市青少年指導員連絡協議会副会長、濱園委員でございます。
濱園委員	よろしくお願いたします。
教育総務部長	続きまして、同じく関係団体推薦の茨木市自治会連合会会長、山口委員でございます。
山口委員	山口です。よろしくお願いたします。
教育総務部長	続きまして、学校関係者といたしまして、小学校校長会代表、松宮委員でございます。
松宮委員	松宮です。よろしくお願いたします。
教育総務部長	同じく学校関係者、中学校教頭会代表、福田委員でございます。
福田委員	福田です。よろしくお願いたします。

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
教育総務部長	同じく学校関係者、中学校教諭代表、東委員です。
東委員	よろしく申し上げます。
教育総務部長	反対側になりまして、学識経験者、立命館大学政策科学部教授の桜井委員です。
桜井委員	桜井です。どうぞよろしくお願いいたします。
教育総務部長	続きまして、学校医代表、茨木市立学校医、城谷委員でございます。
城谷委員	城谷でございます。よろしくお願いいたします。
教育総務部長	続きまして、市民代表で茨木市中学校給食あり方懇談会に参加していただきました市民委員の鹿島委員でございます。
鹿島委員	よろしく申し上げます。
教育総務部長	続きまして、小学校保護者代表、市PTA協議会の橘委員でございます。
橘委員	橘です。よろしくお願いいたします。
教育総務部長	続きまして、中学校保護者代表、市PTA協議会の大島委員でございます。
大島委員	大島です。よろしく申し上げます。
教育総務部長	同じく、中学校保護者代表、市PTA協議会の森下委員でございます。
森下委員	森下です。よろしくお願いいたします。
教育総務部長	続きまして、栄養教諭、小学校栄養教諭代表の加藤委員でございます。
加藤委員	加藤です。よろしくお願いいたします。
教育総務部長	続きまして、同じく栄養教諭、中学校栄養教諭代表の金森委員ござい

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
金森委員	ます。 金森です。よろしくお願いします。
教育総務部長	本日、茨木市民生委員児童委員協議会副会長の井上委員、小学校保護者代表の阪委員、中学校校長会代表の岸本委員、中学校教頭会代表の村上委員、市民代表の中村委員が欠席をされております。次回の会議に出席されました際にまたご紹介をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 続きまして、市側の紹介をさせていただきます。先ほどご挨拶を申し上げました、茨木市福岡市長でございます。
福岡市長	皆さん、どうぞよろしくお願いします。
教育総務部長	続きまして、茨木市教育委員会学校教育部次長兼学校教育推進課長の谷でございます。
事務局 (谷)	谷です。よろしくお願いいたします。
教育総務部長	続きまして、同じく教育総務部学務課長の堤でございます。
事務局 (堤)	堤です。よろしくお願いいたします。
教育総務部長	続きまして、学校教育総務部学務課参事兼保健給食係長の西村でございます。
事務局 (西村)	西村です。よろしくお願いいたします。
教育総務部長	学務課指導主事の竹内でございます。
事務局 (竹内)	竹内です。よろしくお願いします。
教育総務部長	それから、学務課職員の竹野でございます。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局 (竹野)	竹野です。よろしくお願いいたします。
教育総務部長	それから、学務課栄養士の山本でございます。
事務局 (山本)	山本です。よろしくお願いいたします。
教育総務部長	最後に、私、教育総務部長の乾でございます。よろしくお願いいたします。 では、事務局のほうから、本日の委員の出席の状況について報告を申し上げます。
事務局 (西村)	本日の出席状況についてご報告いたします。委員総数 21 人のうち出席が 16 人、欠席が 5 人です。半数以上の出席をいただいておりますので、当審議会の規則第 6 条第 5 項により会議は成立しております。 また、本日は 9 人の方が傍聴されていることを報告いたします。
教育総務部長	それでは、会長・副会長の選出をさせていただきたいと思えます。座って失礼いたします。会長・副会長の選出につきましては、当審議会規則第 4 条によりまして、委員の互選により選出することとなっておりますが、会長につきましてどなたということでご意見はございますでしょうか。
城谷委員	会長には、学識経験者でいらっしゃる桜井委員が最も適任だと考えます。
教育総務部長	城谷委員から、会長に桜井委員をというご意見がございましたが、ご異議ございますでしょうか。何かございますでしょうか。ございませんでしょうか。そのように決定させていただきましてもよろしいでしょうか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
教育総務部長	異議なしということですので、会長は桜井委員に決定したいと思えます。よろしくお願いいたします。 続きまして、副会長の選出をお願いしたいと思えますが、いかがでしょ

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
城谷委員	うか。城谷委員、お願いします。 副会長は、会長の補佐をする大切な役目だと思いますので、会長のほうに一任されてはいかがでしょうか。
教育総務部長	城谷委員のほうから、副会長の選出は、桜井会長に一任してはどうかというご発言がございますが、どういたしましょうか。ご異議はございませんでしょうか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
教育総務部長	ご異議なしということでございますので、副会長は桜井会長に一任をいたします。副会長の選出につきましてよろしくお願ひいたします。
桜井委員	ぜひ専門として食事や栄養にお詳しい小鶴先生にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
教育総務部長	小鶴先生というご発言がございますが、よろしいでしょうか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
教育総務部長	それでは、副会長は小鶴委員に決定をしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。 それでは、桜井委員、会長席のほうにお移りいただきますようお願ひいたします。それでは、よろしくお願ひいたします。
桜井会長	私は昨年度から別の会議で意見を述べたりはしていたこともあるんですが、専門としてはあんまりかかわりがなところですので、ぜひ、私は司会に徹しさせていただいて、多くのいろいろな方のご意見をいただきながら会を進めていけたらよいなと思ひておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。 それでは、本日、この中学校給食審議会を進めていきたいと思ひますが、まず、茨木市中学校給食審議会規則第2条の規定により、福岡市長より諮問をお受けしたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。
福岡市長	茨木市の中学校における望ましい中学校給食のあり方と実施方式の選定について、貴審議会に諮問いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
桜井会長	ありがとうございます。
教育総務部長	それでは、これで市長のほうは退席をさせていただきます。
桜井会長	<p>それでは、ただいまから、福岡市長に諮問いただきまして茨木市中学校給食のあり方及び実施方式の選定について、今後、当審議会において審議することといたします。</p> <p>諮問書を今から配付いただくんですね。事務局のほうでよろしく願いいたします。</p> <p>議事の前にもう一つ、会議の公開についてお諮りをしたいと思っておりますので、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局 (西村)	<p>本市では、審議会の会議は、茨木市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、個人に関する情報を審議する場合などを除き公開を原則として、審議会に諮った上で決定することとしております。また、会議録については、その作成と公表を基本としており、本審議会の会議録もホームページ等により公表していきたいと考えています。会議録の内容は、表記されている発言者のお名前も公表してまいりたいと考えております。</p>
桜井会長	<p>皆さん、よろしいでしょうか。では、ご異議なしということでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、議題のほうに入っていきたいと思っております。議題のⅠ「これまでの経緯について」ということで、事務局よりご説明をお願いしたいと思います。</p>
事務局 (西村)	<p>議題Ⅰ「これまでの経緯について」ということで、資料3をごらんください。</p> <p>茨木市における中学校給食のあり方についてでございます。平成30年度の報告書の3ページの初めにも掲載しております。資料3の裏面の最後、4として「中学校給食については、全員給食が望ましいと考えます」と平成30年1月24日に茨木市教育委員会で決定をしております。</p> <p>この方針を決定するに至った経過につきまして、ご説明いたします。茨木市の中学校ではもともと家庭の弁当を基本としておりましたが、平成17年に食育基本法が制定されまして、健康、教育面から食教育が重視されることになりました。偏食をなくし、バランスのよい食事をみずから選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる子どもを育てるため、平成19</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
桜井会長	<p>年度から中学校スクールランチ事業を順次整備し、実施してまいりました。その後、平成 20 年の学校給食法改正により、学校給食の実施だけでなく、「学校給食を活用した食に関する指導の実施」という目的が加わったところであります。大阪府の中学校給食に係る補助金が創設されたことなどから、平成 25 年 4 月から、民間調理場を活用した選択制の給食を導入し、現在に至っております。</p> <p>平成 28 年度は、生徒、保護者、6 年生の児童、その保護者、教職員にアンケート調査を実施し、あわせて昼食の実態調査も行いました。平成 29 年度は、茨木市の中学校における昼食について、教育委員会として望ましい中学校給食のあり方について、茨木市中学校給食あり方懇談会を開催し、生徒、PTA、学識経験者、市民、市民団体と幅広い意見を聴取いたしました。その結果、教育委員会といたしましては、選択制の給食では生徒が給食を選択しない場合には、栄養のバランスの偏りに解決しない可能性があることや、昼食内容がそれぞれ異なることにより、食育の推進について学校給食を最大限に活用することができないなどの課題があると考え、成長期にある中学生が栄養のバランスのとれた安全・安心な昼食を安定してとること、またさらなる食育の推進につながることから、中学校給食については、教育委員会としては全員給食が望ましいとしたところです。</p> <p>平成 30 年度は、全員給食の導入に向け、本市の現状を踏まえた各給食実施方式の実現可能性や経費について、学校現場の調査、専門的な試算をし、調査報告書にまとめております。それぞれの方式に長所、短所がありますので、この報告書をもとにし、さまざまな視点から審議いただくために、今年度は審議会を設置し、諮問に記載されていますように、本市にとってふさわしい中学校給食のあり方と実施方式の選定について、ご審議いただくものです。以上です。</p> <p>ありがとうございます。今ご紹介いただいたように、平成 25 年から中学校給食を選択式として導入し、平成 29 年度、懇談会を踏まえまして、教育委員会のほうで全員給食が望ましいとしたわけですがけれども、この点、ご紹介いただいた経緯につきまして、皆様のところでもし何かご発言、ご意見、ご質問等ありましたらいただきたいんですけども、いかがでしょうか。</p> <p>ここで何か、経緯の説明だけですから決める話ではないと思いますので、後からでももし何か不明な点があれば、お寄せいただいてもいいかなと思います。では、議事のほうを先へ進めさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>今の、全員給食が望ましいという結論を踏まえまして、今後、実施方式</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局 (西村)	<p>について、この場で検討していくということで、方向性を確認させていただきたいというふうに思います。</p> <p>そうしましたら、次の議題に移るわけですが、Ⅱ「審議会の役割及び開催スケジュールについて」のところを事務局からご説明いただけますでしょうか。</p> <p>審議会及び検討会の役割と開催スケジュール案について、ご説明させていただきます。資料4をごらんください。</p> <p>「茨木市中学校給食審議会の役割」というところでございますが、茨木市の中学生にとって望ましい中学校給食のあり方及び実施方式についての審議を行っていただくという場になっております。審議結果を報告書及び答申書として取りまとめ、来年3月に市に答申を行いたいと思っております。</p> <p>審議会のスケジュールとしましては、全5回を予定しております、表のとおりになっております。</p> <p>まず、中学校給食の検討会についてのご説明をさせていただきたいと思っております。資料4の裏面をごらんください。</p> <p>この審議会とは別に、中学校給食検討会を立ち上げております。検討会の役割といたしましては、実施方式を選定するための必要な事項について協議いただく会議でございまして、中学校給食実施方式ごとの導入に当たっての課題の整理を行っていかうと考えております。検討会の委員のメンバーでございますが、教育総務部長を会長といたしまして、学校教育部長、小・中学校の校長、中学校の教頭、中学校の教諭、栄養教諭、小学校の調理員、小・中学校の事務職員。教育委員会の関係各課としまして、学校教育推進課、教育政策課、施設課、学務課、それぞれの代表です。</p> <p>審議会と検討会のそれぞれの日程と議題をお示ししておりますが、検討会は、本日の第1回審議会の開催に先んじまして、5月16日に既に第1回を開催いたしました。6月25日、来週になりますが、その第2回では他市視察を予定しております。7月2日の第3回で、視察結果のまとめをし、各実施方式ごとの課題について討議する予定にしております。7月19日のこちらの第2回の審議会で、第2回、第3回の検討会の他市視察の結果を報告させていただく予定にしております。審議会のほうですが、11月29日の第3回審議会では、検討会の5回の開催後のまとめの報告をさせていただきます。審議会としましては第4回、3月の第5回で、審議会の最終報告書、答申書をまとめていく予定にしておりますので、よろしく願いいたします。以上です。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
桜井会長	<p>ありがとうございます。こちらの審議会とは別に、より具体的な点について、疑問について討議する検討会が設けられておりまして、そちらのほうでは他市視察などもあるということでこちらより楽しそうという感じもあるわけですが、報告は次回の審議会でもいただけるということなので、またお聞きしたいと思います。</p> <p>このスケジュールについて何かご質問等がありましたら、いただけますでしょうか。</p> <p>それでは、特にないということで、次に進ませていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>では、Ⅲの「中学校給食実施方式の審議方法について」、説明を事務局からお願いしたいと思います。</p>
事務局 (西村)	<p>中学校給食実施方式の審議方法についてということで、資料5をごらんください。</p> <p>これ以降、資料5、資料6、資料7につきましては、全て報告書のほうに記載している部分を抜粋させていただいております。</p> <p>まず、平成30年度調査いたしました報告書の概要ということで、この資料をもとにご説明させていただきます。資料5をごらんください。</p> <p>「1. 調査の目的」でございますが、平成30年度の調査は、茨木市中学校給食あり方懇談会の考え方にに基づき、中学校における全員給食の導入に向け、各給食実施方式の実現可能性や経費について業者委託をし、学校現場の調査、専門的な試算、及び学校現場での課題分析等の実施結果を取りまとめ、市にとって最適な学校給食実施方式の選定に係る基礎資料として報告書を作成いたしました。</p> <p>「2. 茨木市における学校給食実施方式」についてでございます。実施方式別の一般的特徴を記載しております。資料7もあわせてごらんください。</p> <p>本市で考えられます中学校給食の実施方式には、1. 自校調理方式、これにつきましては、中学校の敷地の中に給食室を設置いたしまして調理したものを、その学校の生徒が喫食する方式でございます。これは、本市の小学校と同じ方式になります。</p> <p>2つ目の親子調理方式ですが、こちらは近隣の学校の調理場を親校にし調理した給食を子校に配送する方式です。これにつきましては、中学校を親校にする方式と、現在の小学校を親校にする2方式が考えられます。</p> <p>3つ目ですが、民間調理場を活用する方式です。これは民間の調理場、工場を有する民間業者に市が給食業務を委託して、学校へ給食を配送する方式です。現在の選択制給食は、この民間調理場を活用してお弁当箱に入</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>れ配送している方式ですが、全員給食になりましたら、保温できる食缶に入れて配送する方式を想定しております。</p> <p>4番目のセンター方式ですが、これは市で給食センターを建設し、そこで調理した給食を食缶に入れて各中学校に配送する方式でございます。</p> <p>次に、「3. 調査検討フロー」です。報告書では実施方式を検討するに当たりまして、まず、検討の順番といたしまして、ステップ1で、全中学校で自校調理方式ができないかという検討しております。ステップ2で、中学校を親校にした親子方式か、小学校を親校にした親子方式かを検討しております。ステップ3として、親子方式が成立しないか市にとって最適な方式でないとしたときに、次にはセンター方式か民間調理場方式を検討していくということにいたしました。</p> <p>平成30年度に実施しました調査では、小学校32校、中学校14校の全校に現地に出向きまして、中学校では校長先生等からヒアリングを行い、自校調理場が建設できる敷地があるかどうかという調査をいたしました。</p> <p>その結果、三島中学校、北陵中学校、太田中学校の3校では自校調理場を建設することについては、校舎に隣接している等という課題はありますが、可能という結果になっております。しかし、その3校以外の11校につきましては、自校で調理場が建設できる敷地はないという結果になっております。</p> <p>また、その3校につきましては、ほかの中学校分を調理する親子方式の調理場となる共同調理場としては、不可能である。といたしますが、今の小学校の調理場で調理するのではなく、今後、新しく建設をして親子調理方式をするにはかなり広い調理場をつくらないといけなくなっておりますので、その敷地はないという結果になっております。</p> <p>ですので、既存の小学校の調理場を親として親子方式を実施するための案といたしましては、検討させていただきました案でございます。ただ、今、言いましたように共同調理場として広い調理場ができましたら、小学校と中学校と別につくるということはできるんですが、現在の小学校を親校として親子給食を実施することになりましたら、報告書にも記載させていただいていますが、2回転調理をする前提で組み合わせを考えております。2回転調理といたすのは、小学校の調理場でまず中学校の給食をつくります。まず、中学校の食材を切って、調理をして、できた給食を食缶に配缶してから、もう一度小学校の給食をつくるというような組み合わせです。</p> <p>学校給食衛生管理基準というものがございまして、学校給食で衛生的に調理するための基準がいろいろ定められていますが、そこにおきましては、「調理後2時間以内に喫食できるように努めること」と記載されております。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>す。ですので、給食終了時間に合わせて調理の工程を考えていくということになりまして、報告書では、理論上、小学校の給食の開始時間は13時に変更するように記載をさせていただいております。これにつきましては、小学校のほうでもいろいろ課題がございますので、今後、出てくる課題におきましては、先ほど申しあげました検討会のほうで考えていきたいと考えております。</p> <p>また、先行して実施しておられます高槻市のほうが親子給食をされておりますので、検討会では6月25日に視察を予定しており、いろいろ質問もしてこようと思っております。第2回の審議会でご報告できるように考えております。</p> <p>資料5の「4. 市の実態に即した学校給食実施方式案の作成」というところで、このステップ1から3までで考えました中で、案がAからEまで5案出ております。</p> <p>まずA案は、自校調理方式。先ほど申しあげました3校プラス、それ以外の11校は親子調理方式。B案としましては、自校3校以外はセンター方式。C案といたしましては、全校親子方式。D案は全校センター方式。E案は民間調理場活用方式としております。</p> <p>続きまして、資料5の2ページをごらんください。5案できた整備案の定量的評価、定性的評価ということで記載させていただいております。</p> <p>定量的評価といたしますのは、実施方式ごとに必要となる設計費、建設費といったイニシャルコスト、また調理業務委託費、建物修繕費といったランニングコストを概算事業費として算出しております。維持管理運営期間は、センター方式の全国事例において最も多い15年間として計算しております。自校調理方式は、3校におきまして学校敷地内に給食施設を新設することとして設計費、工事監理費は国土交通省告示第15号に定めている式により算出しております。建設費につきましては、近隣地方自治体の事例により建設単価を設定し、算出しております。調理設備機器調達設置費、食器食缶調達費は、民間見積値から設定しておりますので、これはあくまでも仮定の中の概算事業費にはなっております。</p> <p>A案はイニシャルコスト20億9,000万円、ランニングコストが72億4,000万円です。B案はイニシャルコスト38億円、ランニングコスト83億9,000万円。C案はイニシャルコスト14億8,000万円、ランニングコスト68億円。D案はイニシャルコスト35億1,000万円、ランニングコスト74億6,000万円。E案はイニシャルコスト2億5,000万円、ランニングコスト59億4,000万円です。</p> <p>イニシャルコストとランニングコストを合わせた概算費用につきましては、E案が15年間で約62億円と最も費用を抑えることができる結果とな</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>っており、次いでC案が約 83 億円、A案が約 94 億円、D案が約 110 億円、B案が約 122 億円と最も費用が高くなる結果となっております。</p> <p>続きまして、「6. 整備案の定性的評価」ということでご説明させていただきます。</p> <p>基本方針に基づきまして、◎を「評価項目に適しており、特にすぐれている」。○を「評価項目に適している」。△を「評価項目に適しているが、基本理念の実現に向けて課題を有している」という評価をしております。また、それぞれの課題の整理を以降にまとめております。</p> <p>まず、先に定性的評価を行うための評価項目についてご説明させていただきたいと思いますので、資料6をごらんください。資料6には、中学校給食の基本的な考え方の案をお示ししております。茨木市中学校給食あり方懇談会の考え方を引き継ぎまして、茨木市の中学校給食にとって重要な要素になる基本的な考え方の案を5つの基本方針として設定し、今後の実施方針を審議する上での評価項目として考えております。これにつきましては、またいろんなご意見を引き続き頂戴したいと考えております。</p> <p>基本方針1は、完全給食、全員給食の実現としております。「6. 整備案の定性的評価」のところをごらんいただきますと、A案からD案が○、適しているとなっております。E案が△となっております。これにつきましては、全員給食をまかなえるほどの民間業者が近隣では存在しないというような状態から、現実的には困難ではないかというような評価をしている。このような見方をしていただけたらと思っています。</p> <p>基本方針2の安全で安心な学校給食の提供というところがございますが、これにつきましては、衛生管理につきましては、学校給食衛生管理基準に基づいた適切な衛生管理体制を構築することができるかどうかということで評価をしています。現在ある小学校の給食室を改修して整備していくことに比べますと、新しく建設できる自校や、センターでは、衛生管理体制というのは、アレルギー対応についても、今の既存のところを改修することと比べましたら、差が生じてくる可能性があるのではないかと考えております。</p> <p>基本方針4の持続可能な学校給食の提供についてです。長期にわたり安定的に持続可能な学校給食の提供ができるかどうか、経済性、合理性に配慮し、市にとって最適な学校給食の実現を目指すためには、将来的な生徒数の増減や災害時における早期復旧、地域貢献について評価をさせていただいております。</p> <p>基本方針3の、栄養バランスのすぐれた魅力的な学校給食についての評価でございます。これについては、心身の成長が著しい時期である中学生にとって必要な栄養を適正にバランスよく摂取できるかどうか、中学生に</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
桜井会長	<p>ふさわしい献立ができるかどうかについて、評価しております。</p> <p>基本方針5ということで、食育・地産地消の推進についての評価をしております。生きた教材としての学校給食が可能かどうか、地域とつながる学校給食、地産地消のものが使えるかどうかというところの評価をしております。</p> <p>説明は以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。ただいまの報告を受けまして質疑応答をしたいんですが、私のほうから先に1点だけ確認をさせていただきたいんですが、「6. 整備案の定性的評価」のところ、基本方針4の中に経済性と合理性という項目が別々にあるんですが、これはどういう違いで分けられている項目になっている感じでしょうか。報告書のほうを読んでも、いまい違いがわからなかったところもあったんですが。</p>
事務局 (西村)	<p>経済性といいますのは、定量的評価で示していますランニングコストの部分が大きくなっていくかなと思います。合理性につきましては、今後、生徒数の増減でありますとか、親子でしたら今の人数に合わせた整備をしていくんですが、そこでまた生徒がもっと増えたら今ある整備以上の整備をしていかないといけないとか、人数が減ってきたときにどうするかとか、将来的に統廃合が、何十年先にあるかもしれないので、もし統廃合があったときというところかなど合理性であるのではないかと考えています。</p>
桜井会長	<p>ありがとうございます。さまざまな変化に対応するときに、コスト面での柔軟な対応がより低くできるかということかなというふうにお聞きしました。</p> <p>委員の皆様、いかがでしょうか。では、もう一つ、よろしいでしょうか。</p> <p>同じく定性的評価のところなんですが、衛生面のところで、センター方式が◎で、ほか△になっているわけですが、現行、小学校においては自校方式でされているわけで、それが何かセンター方式◎に比べて、現行の小学校も△評価みたいな感じに捉えてもいいのかどうか。もちろんリスクの発生の高さとか対応のところを踏まえているのかなとは思いますが、その辺、現状、何か課題があるのかないかとも教えていただければありがたいかなと思います。</p>
事務局 (西村)	<p>食中毒の発生の面で考えますと、食中毒の発生のリスクを抑制するために、分散か、集中管理をするのか。市の体制のほうから考えたところで、</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>集中管理であるセンター方式のほうがリスクとしては少ないのではないかと いうところを◎にしています。ただ、発生した際の被害のほうから考え ますと、センターでしますと集中的に全部に被害が及んでしまいます。で すので、そこは報告書の 46 ページにあります。衛生管理では、市として の予防対策について、センター方式でしたら集中的な衛生管理が可能であ り、人材、施設とも徹底した予防対策をできるといったところの評価を◎ にさせていただき、やはり分散すると市としての管理体制としてどうかと いうところの評価にさせていただいています。ただ、下の部分に、万が一 食中毒が起こった場合はという被害のほうでも一応評価はさせていただ いていますが、今回は市の体制というところでの評価をさせていただきました。</p>
桜井会長	ありがとうございます。お願いします。
小鶴委員	質問させていただきます。「6. 整備案の定性的評価」の部分の基本方針 3のところ、献立と適温の提供というところで、A案、B案、C案、D 案、E案についての△と○がついていると思うんですが、ここでいう献立 部分のA案、C案、親子方式が入っている部分について献立の部分が△に なっているかと思えます。これは、その調理が2回転することによって、 献立が制限されるということでしょうか。
事務局 (西村)	今の小学校の献立は、当該校の給食場で作っているんですが、施設と か機械の改修とか入れかえによってある程度はいけると思うんですが、や はり小学校の給食は、スチコンを使ったり、手の込んだ給食を作ってい ますので、小学校と中学校の2校分をつくることになれば、その辺の制約 は出てくるのではないかと考えております。中学校給食は小学校給食と同 じものをどうしてもつukらないといけなくなりますので、中学生にふさわ しい献立という、独自の献立をつくるという面では、親子方式は制限が出 てくるんじゃないかというふうに、考えております。
桜井会長	今のご意見で言うんですけれども、検討会のほうでも高槻に見学に行か れるときにも、高槻は親子方式でやっていますね。ぜひ確認をしてきてい ただければと思います。
事務局 (西村)	はい。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
森下委員	<p>市Pからまいりました森下です。</p> <p>基本方針4の(3)なんですけれども、災害時における早期復旧というところがあるんですが、それぞれの方式によってどのような対応になるのかを教えていただけたら助かります。</p>
事務局 (西村)	<p>具体的にと言いましたらちょっと難しいところがあるんですが、センターを建設するに当たりましては、災害対応に強いセンターということを考えられるかと思っております。他市でもしておられるんですが、釜を取り外して炊き出しの時に使えるようなものであるとか、ガスもプロパンガス用のどちらも使えるようなものにするとか、そういうことができると思っております。センターでしたら、災害時には早く地域に貢献できるセンターを建てるのが可能であると思っております。ただ、現状の小学校の給食場は、やはりそこまで、対応ができていませんし、今後、その整備については難しいところがあるのではないかと思っております。</p> <p>また、災害の対応のところのE案、民間調理場が△となっておりますが、工場の設備というのは市で対応していくものではありませんので、困難というような評価にさせていただきます。</p>
桜井会長	<p>よろしいでしょうか。</p>
森下委員	<p>ありがとうございます。</p>
桜井会長	<p>この報告書はこれでお書きいただいているとおりでと思うんですけども、ここで書いていただいているのは、災害時の地域への貢献の仕方ということで書いていただいていると思うんですが、恐らく災害対応というふうに項目が上がっているときに一つ気になるのが、いかに災害を受けたときに、より早く復帰できるか。給食をつくって子どもたちに出す機能が、BCPでしたか、より早く復帰できるかというところがもう一つ気になるところでもあるのかなと思います。その辺、どこまでこの会議でも議論できるのか、わかりませんが、何かちょっと项目的には今回は違う形で書いてあるんだなと私は受けとめました。意見のような、すみません、中途半端な感じですが。</p> <p>そのほかの委員の方、いかがでしょうか。</p>
小鶴委員	<p>もう一つ、食物アレルギーの対応についてというところで質問させていただきたいんですが、現状では、それぞれに小学校では個別対応でアレルギー対応はされているのでしょうか。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局 (西村)	はい。
小鶴委員	<p>それに基づいて考えたときに、アレルギー対応についての個別をもとに親子方式にするに当たっても、数が増える分リスクではないかというご意見で、多分6番の定性的評価にA案、C案は△という形になっているんだと思うんです。今度、高槻に行かれるということでしたが、ぜひ箕面のほうにも足を伸ばしていただいて、どのようなアレルギー対応をしているかということを確認していただいて、リスクを減らすことが親子でも可能でないのかということも、ぜひ模索していただけたらと思います。</p>
事務局 (西村)	<p>今現状、小学校の給食場はアレルギー対応ができる専用の調理室というのはいないんです。給食場の中の一画のガスコンロを使って対応しております。原則、今、卵とウズラ卵の除去だけが全校統一のアレルギー対応になっています。ですので、それ以外の対応は個別で学校で検討しながらやっております。ですので、それ以外の対応は個別で学校で検討しながらやっております。</p> <p>ですので、評価のところでも今、先生におっしゃっていただきましたように、小学校で親子をするとなると、やはりそれ以上の対応は、専用調理場がありませんので難しくなってくると思います。高槻市では、多分小学校でやっている同じ対応を中学校でもやっておられるんですが、お弁当の小さいジャー、それに1人ずつ入れて中学校に運んでいるというふうに聞いておりますので、その辺は視察に行ったときであるとか、実際、実施していくに当たりまして、検討をこれから重ねていけるとは思っています。</p> <p>この評価ですが、やはりアレルギー対応は、自校であるとかセンターであるとか新しく建設するとなりましたら、次の基本構想や基本計画で、アレルギー対応をどうしていくかを考えて、どこまでのことができるか、今後、考えていけるのだとは思いますが、今ある調理場での親子ですと、小学校の調理場をつくるというところでは、小学校と同じようなことしかできないんだろうなというふうに考えております。</p> <p>箕面市ですが、全学校の給食で、食材については低アレルギー、低アレルギーの調理をされていると聞いております。それも、小学校の給食を含めて中学校をどうしていくかというときに、低アレルギーの食材を使う、卵を一斉になくしたりとかいうこともしておられるということです。全校、卵のない献立とか牛乳のない献立と。茨木市の小学校給食でもアレルギー等で、献立作成時に工夫しているところがあったら、ご発言いただけたらと思います。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
加藤委員	<p>小学校栄養士の代表で来ております加藤といたします。</p> <p>小学校の場合は、先ほどもあったように鶏卵とウズラ卵の除去食が市としての方針で出ています。献立を立てるときには、やっぱり毎日、卵が続かないようにとか、おかずが今2品か3品あるんですけども、全てに入っていたら食べられなくなってしまうので重ならないようにとか、ほかにも小麦粉が続かないようにとか、いろいろ献立については栄養士のほうでも配慮しながら日々、立てさせていただいています。</p> <p>箕面市のほうもちょっと聞いたことはあるんですけども、7大アレルゲンの分を全て給食に出さないという方針で今、やっておられるというのを聞いたことがあるんですが、それで給食にパンがなくなって、今年からご飯だけになったということを知っています。子どもたちにはできればいろんなものを食べてほしいという願いも、私たちのほうにもあったりするので、小麦粉のアレルギーの方もたくさんおられるんですけども、できればいろんなものも食べてほしいという思いはあります。</p>
小鶴委員	<p>はい。低アレルゲン食という一つの提案だなというふうに思いました。それをすることによって、毎日給食には卵、あるいは献立の中で、牛乳はつきますけれども、チーズや牛乳というものがついても、乳製品が献立調理のときに入ってこないという形になりますよね。そうなったときに、誤って子どもたちが食べるというリスクが、それを監督している先生方のほうのチェックがかなりハードルが下がるんじゃないかなというふうに思いました。一つの方法だなというふうに思いましたので提案させていただきました。</p>
加藤委員	<p>牛乳を使わないという献立も増えているというのを知っていて、その分、やはりお豆腐とか豆乳を使う献立が、タンパク質をとったりするので増えているというような話も聞いています。そうすると、やっぱり大豆アレルギーの方もおられたりするので、そういう方は除去食があったりとか、おうちから持ってこられたりとかという回数が結構増えているというお話も聞いたりもしています。</p> <p>反対に、今だったら卵も入っていないマヨネーズとかもあるんですが、給食でも食べられる、おうちでも食べられるとなったら、外食したときに、これは食べてもいいもんだと思って卵の入ったマヨネーズを食べてしまって、アレルギーが出るというようなこともこれからちょっと心配になっていくかなという話もあったりしています。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
桜井会長	<p>アレルギー除去食につきまして、完全に分けるとなると設備を新たにしなければいけないというところで今回、この報告書では評価されているわけですがけれども、考え方には、低アレルギー食を箕面市などでやっているような形で、考え方によっては方法はいろいろあり得るんだということで意見交換させていただいたかなと思います。</p> <p>今のことに関しても、そうでなくても、ほかの委員の方々、いかがでしょうか。</p>
森下委員	<p>先ほどの高槻の親子方式で、箕面さんの紹介もあったんですけども、豊中市さんに視察に行かれるということですがけれども、豊中市さんはなぜ行かれるのかとか、特色のほうを教えてくださいたいと思います。</p>
事務局 (西村)	<p>豊中市は、中学校給食ではなく、小学校の給食なんですけれども、給食センターでされておられます。給食センターというのはどういうところであるか、どのような工場で作っておられるか、センターの様子を見ていただきたいと行くことにしております。</p> <p>親子給食なんですけれども、報告書のほうにも記載させていただいているんですが、大阪府下で親子調理方式をしているのは、高槻市と島本町だけなんです。島本町は、中学校は2校しかありませんので、1つの中学校に大きい調理場を建設されまして、そこでもう一つの中学校の分もつくっておられます。あとは高槻市だけですので、高槻市のほうを見に行かせていただくということ。あとは、豊中市の新しいセンターです。自校は小学校で皆さん、ご経験されておられますので、見せていただくのはそういうところかなと思いました。</p> <p>すみません、親子は大阪市もしておられます。</p>
桜井会長	<p>大阪市は、以前、民間調理場活用をされていたんですか。</p>
事務局 (西村)	<p>以前、大阪市も選択制の民間調理場活用方式、本市と同じような弁当箱方式にされたんですが、全員給食にきなさいということで全員お弁当箱方式でされたんです。報道でもごらんになったことがあると思うんですが、やはり残食が多いんじゃないかというところから、どんどん切りかえていかれて、今は小学校でつくられる親子方式と、小中一貫校があったりとか、中学校も建てられたところが何校かあると思うんですが、ほぼ小学校でつくられた親子方式で、たぶん今年度中に全校がやられると思います。</p>
桜井会長	<p>大阪府下、北摂でもいろいろあるわけですがけれども、箕面はどういった</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局 (西村)	方式でしょうか。
事務局 (西村)	箕面市は、自校調理方式の給食場を中学校に建てられました。
桜井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>昨年度までの報告書をベースとしながら、本日のところで今後、この審議会で話していく内容についての方向性を確認し、意見交換をさせていただいたところであります。予定のところで確認をいたしました。複数回行って、最終的に方針について決定していくということで、不明な点は何かあれば事務局にいつでもお聞きいただければよいかなというふうには思います。</p> <p>本日のところで、何か決めておかないといけないことはありましたか。大丈夫でしょうか。ありがとうございます。</p>
事務局 (西村)	ありがとうございます。一応、議題は終わったんですけれども、まだ時間がありますので、お1人ずつ一言ずつでもいただいてよろしいでしょうか。
桜井会長	そうですね。これだけの人数ですので、今日はなかなかお1人ずつご意見をいただけないかなというふうには思っていたのですが、大分時間がありますので、ぜひ、ご挨拶がてらお1人ずつご意見、この会議に関して、あるいは給食について思うところをぜひ忌憚なく、ご自由にご発言いただければいいんじゃないかなと思いますので、よろしく願いいたします。
小鶴委員	<p>では僭越ながら1番バッターで行かせていただきます。梅花女子大学食文化学科の小鶴と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>一昨年度から学校給食のあり方についてというところに参加させていただいて、ついに茨木も新たな改革に入ってくれてくれるということを非常にうれしく思っております。小学校の学校給食はとても人気がいいですので、その部分を大事にしながら、中学生がスムーズに学校給食が始まればいいなというふうに思っております。</p> <p>特にこれから大事にしてほしいなと思うのは、小学校でももちろんされていることだと思いますけれども、「ともに食べる」「一緒に食べるのがおいしいな」というのは小学校でもみんなやっていることだと思うんですが、その中で、一緒に食べながら、今日の味はどうだったこうだったとか、そういう食べ物についての話題をぜひぜひ一緒に食べる中で子どもたち、先</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
村上委員	<p>生も交えてしながら、五感を通じて食べることへの興味というのを中学校教育においても、さらに広げていっていただけることを大いに期待しております。</p> <p>追手門学院大学の村上と申します。私自身の研究は、ガストロノミー概念を通じた地域振興の研究とちょっとよくわからないんですけども、おいしいものを通じて地域に何か貢献できるようなことをしましょうというような研究で、例えば茨木市さんとかかわりでいえば、産学連携スタートアップの支援事業などをいただきまして、見山の郷さんと一緒に商品を開発したりとか、駅前の成田屋さんと一緒にふるさと納税返礼品を開発したりというような形のことをしております。また、茨木市には大阪府中央卸売市場というのがございまして、そこの方ともいろいろおつき合いをさせていただいております。</p> <p>市場さんのお話を聞くと、地域での学校給食というのが比較的、この話でいいますと民間の事業所にお願いするというような形の部分が出てくると、どうしてもとってくる野菜であったり、とってくる魚というのが、大阪府とはあまりかかわりのないところでのルートのもが増えてくる。そうすると、市場での流通量も減ってくるというようなお話もよく聞きます。茨木市さんの場合は、見山の郷さんから例えば龍王味噌をとって使われたりというようなお話で、ここの地域、あるいは茨木市だけではなくてもう少し広く大阪であったり、北摂、関西であったりという中での食というものを何か子どもたちが感じられるようなところでの食育というのができる学校給食がいいんじゃないかなとは、私個人としては考えています。</p>
下田平委員	<p>社会福祉協議会からの推薦ということで来させてもらっています下田平と申します。</p> <p>耳原地区でこども食堂をやっているんですが、今、こども食堂は茨木市は十二、三箇所やっているかなと思うんですけども、耳原地区でやっているのは、地区福祉委員会がやっている唯一の地域のこども食堂です。このこども食堂を開催するに当たって、桜井先生にいろいろとご指導いただいているんですけども、月1回の開催で夏休みとか長期休暇中は毎週のランチということでやっています。すごくたくさん子どもたちが来てくれたんで、「中学生に朝食を」といって去年、4か月ほどやったんですが、なかなか中学生は「ぎりぎりまで寝ているほうがいい」と言って参加者が少なかったんで、今年はやめました。夜だけやっています。</p> <p>中学生の給食について私が考えたのは、保護者、おうちの方はすごくいいことだなと思っていらっしゃると思うんですが、単純に考えると先生の</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
濱園委員	<p>負担がすごく増えるんじゃないかなと心配しています。孫たちに聞いてみましても、今の選択制の給食をたまに食べる。この前、中学校で一斉に1年生の試食会があったんですが、小学校の給食のほうがおいしいと言いました。なので、やっぱり小学校のようにその場でつくってもらえる給食というのが、子どもたちに食べる上で、残飯、残り物もなくっていいのかなと思います。</p> <p>私は青少年指導員の濱園と申します。地域のほうは、太田地区になります。去年から、夏休みランチということで2週間に1回、子どもたちにランチサービスと夏休みの宿題を一緒にやっています。</p> <p>今回議題に上がっていたAからE案とかを見ていて、いろいろ話を聞いたんですが、子どもたちにとってほんまにどれがいいんやろうというのをずっと聞きながら考えています。今もまだその答えは出ていませんが、子どもたちが「おいしかったな」「よかったな」「中学校の給食、おいしいな」とそう思えるような、子どもたちにとっていい給食というのはどういう形なのかなというのをこの先ずっと、5回通して見ていきたいなと思います。</p>
山口委員	<p>自治会連合会という立場で、どうもまだぴんとこないです。申し訳ございません。ただ、親子方式と言うんですかね、小学校を使うことなんでしょうけれども、やっぱり12歳までの小学校とハードなクラブ活動をしている中学生とのメニューの内容が随分変わるんじゃないか。学校を使うとき、小学校を使うときに果たしてうまくいくのかなという懸念を単純にしています。</p> <p>それともう一つ、1小学校と1中学校、考え方によっては複数の小学校を使ってもいいんじゃないかな。中学校には複数の小学校から皆さん、子どもが集まっていて、そこで食べた小学校の食事というのがあるわけですから、それは余り違和感がないんじゃないかなと思うんで、どうしたらいいのかな、まだ僕なりの結論は出ていませんが、難しいなというのが今現在の心境です。</p>
松宮委員	<p>春日丘小学校の校長の松宮です。小学校のほうは、各校の調理場で調理員さんに心を込めて給食を作っていて、子どもたちはそれを本当に喜んで食べている状況です。1年生とかは、今まで食べたことのないものが給食に出るとなかなか食べることができなくて、やっぱり嫌だな、残そうかな、でも周りの友達が食べているのを見て食べられるとか、そういう話もちょうどこの間、保護者の方も交えて給食の話をしておったところです。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福田委員	<p>そういった中で、好き嫌いをなくしていくことも一定の成果も上げている。しかし、毎日どうしても残さいが出てしまう。子どもたちの大好きなメニューだと、どのクラスも空で返ってきたりすることもあるんですが、そういうことも減らしながら、給食というのは栄養バランスを考えてもらったものを自分たちが食べるということで無意識にバランスがとれるんですが、そうでなくてだんだん自分でどういうものを食べていくのかということも考えられるような、そういう中学校給食にもなってほしいなと思います。でも、いろんな条件とか、設備を整えるのも大変なことだと思いますので、ここでいろんなご意見をいただいて中学生にとって本当にいい中学校給食が実現できればと思っております。</p> <p>南中学校の教頭の福田です。前任校で小中連携で時々小学校のほうに行かせていただきまして、給食を食べさせていただいておったんですけども、結構それが楽しみやったんですね。今日も選択制の給食、箱に入ったのを食べさせていただきましたが、やっぱり正直なところ、おいしいのは小学校で食べさせてもらうほうがおいしかったという感想です。</p> <p>中学校として実際給食というのを考えていくにおいて、私自身が正直考えていることというのは、実際どう運営していくのかということの不安です。どういうような状況になるのか。例えば若干しんどい学校であったら、果たしてこの給食の準備ができるのかなと。あとは、中学校の場合は放課後は、クラブ活動の時間をとってやらないととなるわけなんですね。中学校は大体 13 時 20 分から 25 分ぐらいに 5 時間目が始まるんですが、小学校の場合は大体 45 分か 50 分。そこで大体 30 分ぐらいの時間の差というのは出てくることになります。その辺は子どもはちょっといろいろ、中学校としては課題を抱えているのではないかなとそういうような思いを今、しています。</p> <p>ただ、前に働いていました市の中では、同僚から聞いた話なんですが、給食が始まって不登校生というのが減ったというようなことを言っている職員がやっぱりいるんですね。データで示されたわけではないんですが、そういう話も聞いたことはあります。ですので、やっぱりこういう給食に対して期待というのは、不安と同時にあるかなというふうに思っています。</p>
東委員	<p>中学校教諭の東です。今まで担任してきた生徒を見ましても、お弁当を持ってこられなくて、いつも菓子パンみたいな子も見ましたので、温かくておいしい、栄養のある給食が実施されるというのはいいことだなと思うんですが、なにせ中学校は今までずっとそういうシステムがなかったもので、本当にそれを導入するとなったらどうなのかなとやっぱりすごく不安で</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
城谷委員	<p>す。</p> <p>うまく回り出したらオッケーだと思うんですが、いろいろ考えてしまうのは、先ほどもおっしゃられていたんですが、当番制で何人かが当番すると思うんですが、本当にその子たちがちゃんとやるのかとか。我が子の小学校のイメージで見ると、エプロンみたいなのを着用するじゃないですか。1週間借りて、土日洗って、また月曜日に持ってくるじゃないですか。それができるのかとか。私は家庭科担当なんですが、調理実習で絶対エプロン着用するようにしてしまして、忘れるとレンタルエプロンをたくさんストックしておいて貸すんですが、なかなかそれも着用を拒んで時間がかかったりとか。貸したら絶対洗って返すようにと言っているんですが、なかなか返さない、なくしてしまう生徒もいたりとかで、そこら辺が本当に上手に回るのかなとか。すみません。実質コントロールするのはいいんですけども、それにかかわるいろんなことがとても心配。</p> <p>放課後に部活動があるので、割と委員会活動を昼に今までやってきていまして、45分間昼休みがあるんですが、大体20分ぐらいで中学生は食べてしまうので、後の5時間目が始まるまでに何とか委員会というのをやっていて、それが配膳とかしたらとれなくなって、結局放課後に委員会をやるのかとか、ちょっとそういう別なところで心配というか、どうなるのかなというのを思っているのは正直なところです。</p> <p>学校医代表ということで来させていただいています。茨木市内で内科のクリニックを開業しています城谷といいます。</p> <p>私を感じるのは、ふだん大人を見る人が多いんですが、家族とかによる社会環境によっての健康格差というのがすごく顕著になってきているなというのを感じるんですね。それは、子どもにしても然りで、家族状況によって子どもの健康状態が左右されるというような状況が起こってきているように感じるんですが、最近をよくあると感じています。</p> <p>そういうようなことに関していうと、給食できちんとバランスのとれた食事を1日必ず1食でも食べることができるというのは、非常にありがたいことかなというふうに思います。</p> <p>中学生にまで今度、給食を皆さんで喫食できることになるのであれば、今まで小学生の間はなんとなく出てきたものを食べるというような感じだったかもしれませんが、今度中学生になるのだから、もう少し子ども自身が成長しているわけですから、子どもがきちんと栄養というものを考えて食べられるというような、食育的な教育もあわせてしていただけたらうれしいなと思っています。やっぱり自分の健康というのはずっと死ぬまで、できるだけ健康でいてほしいなと思っていますし、その健康をつくって</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
鹿島委員	<p>く上で食事というのは本当に基礎の基礎だと思っています。その基礎の基礎の部分、自分の力で選べるというような力を育むためには、小学生だけではなく、もう少し成長した中学生にそのような機会が今回与えられるというのは、とても有意義なことかなと考えております。今の茨木市にとってベストな給食が提供できるように、皆さんで知恵を絞っていただきたいなというふうに感じています。</p> <p>私は、先ほどお話があったんですが、茨木市中学校給食あり方懇談会というものに参加させていただいたことをきっかけにこちらにも来させていただくことになった、一市民の鹿島あゆこと申します。子育て経験もないですし、給食といたら自分が食べてきた経験くらいしかほとんどないので、基本的に皆さんの話を聞かせていただいたりとか、前回参加させていただいた中で、保護者の方たちが中学校でお弁当をつくられていくのが大変であるというお話とかそういったところをお伺いしながら、初めて市民として中学校給食がどうあったらいいのかなということを考え始めたところなんです。</p> <p>先ほどの話でもあった、福祉の側面で、子どもさんたちがどんな家庭環境にあってもちゃんとした食事をとれる機会が増えるというのはすごく大事なことだと思うので、とてもいいことだなと思う一方で、それがいい経験になるためには、現場の先生方とかとの関係の中でちゃんと食べられるような環境が整うことというのもすごく大事なんじゃないかなと思います。広く実施したもののうまくとれないとか、そういったことになってしまったら意味がないのかなというふうにも思うので、前回の話の中で少し出ていたんですが、やっぱり現場の人員配置とか、新しい方式を取り入れるとなったら、つくられる方、仕事を担う人というのにも必要なかなと思います。今回のお話の中で、方式が幾つか出されていたところには、余り人員配置の話とかそういった内容がなかったので、ところどころ出てきてはいるとは思いますが、どれぐらい実現可能かということを考える上では、そういった指標も加えて検討していくことがいいのかなと思いました。</p>
橘委員	<p>茨木市PTA協議会から来させていただいています。小学校保護者の代表ではあるんですが、自分の子どもは高校生から小学生までおります。</p> <p>我が子は保育所から茨木市にお世話になっておりまして、やっぱり給食というのを子どもたちは五感で感じられるようになり、食育の大切さを子どもたちの話を聞きながらそういうことなんだというのを感じました。朝、お出汁のおいがしてきたら、今日は煮干しのおつゆなんだとか、今日は揚げ物なんだとか、カレーの炒めているにおいがするとかそういうこ</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
大島委員	<p>とを小さいうちから、うちの子たちはいろいろ話をしてくれたりしました。今、二十歳になる息子がいるんですが、家に帰ってくる近くでにおいがあると、「今日は何だよね」みたいな感じで話をしてくれることもあります。</p> <p>においてメニューが当てられる、日常の当たり前のことなんですけれども、そういうのを感じられない子どもたちも今、家庭環境では多いのかなというのを常々ニュースで聞いたりしているので、少しでも温かいものを心安らぐ環境で食べられる機会が中学生にも与えられたら、すごく助かる子どもたちがいるんじゃないかなというのは今感じております。</p> <p>市PTA協議会から来ました大島です。私のところも息子が2人います。上が今、高槻の府立高校に行っています。下が北中学校に今、います。</p> <p>これは偶然なんですけれども、私もこの6月の頭に2週間ほどお弁当をつくれなかったので、下の子は給食を2週間頼みました。1日目の反応は、「まあ、食べられる」と帰ってきました。2日目の反応、「今日はカレーやったから、食べられたわ」と帰って来ました。3日目の反応が、男子なんで女子から「残さんとちゃんと食べや」と。でも「限界」と言って、おいしくない。4日目、5日目はよかったです。だんだん過ぎるうちに「ママ、ふりかけ持っていい？」と言いまして、それはつくってくれたはる人も栄養面を考えてくれたはるからそうなるねんてと言ったんですが、「これを食べてたら、僕、休憩時間なくなる」みたいな感じで言われました。そうか、じゃあ、ふりかけも持っていきと言って過ごしたんです。</p> <p>私も役員で2回ほど給食試食会に行かせてもらいまして実際に食べたんですが、それはたまたまカレーの日でカレーはいけたんですが、あとの野菜がちょっと味が薄いし、おいしくないと言うのもわからんでもないかなとちょっと思ったんです。</p> <p>それと逆に、すごいびっくりしたのが、上の息子が高槻の府立高校に行っているんですが、高槻は親子給食というところもありつつ、ちょっと聞いたんですが、阿武山中学とかは人数が多いので、大きい学校は自分のところをつくったはる。それで、上の息子はずっとお弁当で茨木はきてたので、高校に行ったときに息子は逆に学食に行きたいとすぐ言ったんですが、高槻の生徒の方はすごいお母さんのお弁当を楽しみにしているみたいで、でも高槻の生徒の中でも阿武山中から来た子らは「おいしかった」と。味がものすごいおいしかったと言うんですが、親子給食でやられていたところは、七中のあたり、生徒数が少ないので多分近くの小学校から来ていると思うんですが、そこの子たちはあまりおいしくなかったと。何でこんなにと、同じ材料で同じものをつくられていると思うんですが、それはすごく聞いていて・・・。今は高校生はお母さんのお弁当がすごいおいしいみ</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
森下委員	<p>たいですが、私も料理下手なんで栄養面を考えると給食で、温かい、ちょっとおいしい給食にしてもらえたら、保護者の立場としてはすごい助かります。</p> <p>市Pの中学校のほうから代表としてまいりました。橘さんと同じ5人の子どもがいます。一番下の子は中3で、最後のPTAなんです。なので、これからちゃんと進んだころにはうちの子は恩恵にあずかれないのかなと思いつつ、でも後々の子どもたちのためにと考えて参加させていただきたいと思います。</p> <p>会長の桜井先生が忌憚なくとおっしゃっていたので、私個人の意見も含めてお伝えさせていただきたいなと思うんですが、私は公立幼稚園で働いておりまして、そちらのほうもあるんですが、今回は茨木市PTA協議会から参加させていただいています。</p> <p>題名自体が茨木市中学校給食の審議会なので、そもそもの話とは違うかもしれないんですけども、市Pの中には幼稚園も入っているんですね。認定こども園、幼稚園のほうも入っております、現在、茨木市の公立の認定こども園、幼稚園は14校あります。そのうちの認定こども園が5校、幼稚園が7校になります。認定こども園のほうは給食施設をつくらないといけないと決まっていますので、認定こども園の5校のほうは給食のフォローがあります。ただ、幼稚園のほうは給食の設備が整っておりません、親御さんのお弁当を持ってくるという形になっております。</p> <p>幼稚園のほうでお仕事をさせていただいて、認定こども園のほうでもさせていただいたんですが、やはり給食が出る認定こども園のほうでは、子どもたちの食べ方自体がやっぱり変わってくるし、好き嫌いも違ってきますし、食べる量もほかの子たちと一緒に食べるからおいしい、おいしいとたくさん食べるというようなことも経験させていただいて、中学校の給食の考える中で、もしうまく乗っかることができるのであれば、幼稚園のほうの給食システムというものも何かの形でさせていただけたらととてもいいのになど。やはり子どもというのは、中学生だから給食が必要というものではなく、幼児期の間も大切な食育であったりとか、食べることの大切さというものも必要なのではないかなという点が一点です。</p> <p>あと、私自身が所属している単位PTAの活動なんですけれども、PTAでお店づくりをさせていただいたりとか、生徒さんが初めて炊き出し講習という形で自分たちでおにぎりをつくってみたり、あるいはご飯を炊く経験をしたことがない子もたくさんいるので、ご飯を炊いてみようであったり、おみそ汁をつくってみようというような防災に絡めた炊き出し経験というものをさせていただいております。その中で、やはり親の意識改革</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
加藤委員	<p>も進めていかないといけない、PTAが担うべきところなのかなということがありまして、そちらのほうも市Pとして取り組んでいけるようなところがあれば、今日、いろんな方のお話も聞かせていただいたので、そういう形でいかせていただけたらと思います。</p> <p>また、今勤めている職場でも給食の献立表というのがあるんですが、そちらのほうを親御さんが持ち帰られて、それを参考に晩ご飯をつくっておられたりというようなことも多々見受けられますので、「この給食、おいしかった」という子どもの意見があれば、きっとそういうのも参考にしてもらえんじゃないのかなと思いますので、中学校のほうでももちろんそういう献立表を、ぜひぜひ中学校給食のほうを進めていくのに参加させていただけたらいいなと思います。</p> <p>小学校の栄養士の代表で出させていただいています加藤といいます。学校に勤めている者で親でもあるので、お弁当を今まで結構長い間つくってきているので、実際、我が子も給食があれば、お弁当はつくらんでもよかったのになと思うことがあります。お弁当はお弁当でおうちの方の愛情のこもったものなので、子どもたちは喜んで食べてくれているかなと思うんですが、学校に勤めている者からすると、みんなが同じものを食べていると、それについてのお話ができたりとか、好き嫌いがあつたりもするかもしれないんですが、みんなで食べてちょっとでも食べられるようになろうねというようなところも、中学生であっても小学生であってもそれは同じかなと思います。なので、今は、すごく選択制の給食も喫食率が低いというのは聞いているんですけども、喫食率が低いと献立の内容もどう考えていったらいいのかなという部分も多分中学校の栄養士の方は苦勞されていることがあると思うんですが、そうじゃなくて、みんなで同じものを食べて同じようにというふうになれば、すごくいいことだなと思います。</p> <p>実は今日、小学校は沖縄料理の日だったんです。ゴーヤーの入ったかき揚げとソーキ汁とあって、ちょっと本物はできないので米粉の麺を使って豚肉の入ったお汁だったんですが、そういうのも行事行事に合わせたりとか、そのときの旬のものを使ったりとかというのを小学校でもやらせてもらっているんで、そんなものを中学生にも伝えていけたらいいなというふうなことは思っていたりもします。</p> <p>ただ、先ほど中学の先生方がおっしゃっていたように、今まで中学校は給食というのがないので、これから中学校給食が始まったらどうしていくのが一番いいのかというところは、すごく話を丁寧にしていただかないと、「給食します」「はい、お願いします」というのではとてもじゃないがやっていけないと思います。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
金森委員	<p>今度高槻とかも視察に行かせていただくので、高槻は親子は段階的になるので、そこでどんな工夫をされて中学校の時間の配分であったり、親子にするなら2回つくらないといけないことになるので、小学校でどうしていけばいいのか。そこからというのも、いろいろ課題がたくさんあるかなと思いますので、本当に丁寧に話し合いをしていただいて、小学生にとっても中学生にとってもよりよいものになればいいかなと思います。</p> <p>中学校栄養教諭代表の北中学校の金森と申します。なかなか評判の厳しい中学校給食の献立作成にもかかわっているんですが、心を込めて献立は立てているんですが、調理業者の方とも毎月、こういうふうにつくりましょうという綿密な打ち合わせもさせてもらって、先月のこの日のこの献立はちょっと味が薄かったので、こんなふうに次は調理してくださいとか、少しずつでもおいしくなるようにして工夫は重ねているつもりですが、なかなか結びつかないところが辛いところです。</p> <p>それがなぜかを私も小学校にいたことがあるので考えると、調理場が校内にあって、朝からにおいが流れてきて、調理員さんもその学校に勤めている人の一人なので顔を知っていたりとかして、やっぱり知っている人がつくる料理というのは、味ももちろんですけども、顔の見える食べ物というのはおいしいんだろうとか、温度がちゃんと伝わるんだろうというふうに思って、今の中学校の給食のやり方も限界には感じています。</p> <p>小学校のほうで先ほど加藤さんがおっしゃっていたように沖縄メニューであったり、地産地消、茨木産のものを取り入れたりとかいろんな行事食などの工夫もされていて、それを一部中学校でも取り入れてはいるんですけども、やっぱり地産地消に関してはかなり制約が民間業者の方とやりとりをする上では難しいことがあります。そういった面で、中学校で全員喫食になったときに、小学校と同じような物資が使える、加工品であっても添加物の少ないものが使えたり、いろいろと小学校と同じもの、安心・安全をより中学生にも追求していけるのかなというふうに、中学校給食に関わっている者としては期待しています。</p> <p>ただ、中学校で働いてみて、中学生の生徒指導の厳しさというのは、小学校とは全然違う部分もたくさんあると感じましたので、給食をしてそれを生きた教材として食育に活用していくには、やっぱり先生方の理解、協力が不可欠ですので、その部分を丁寧に準備段階からしていったら、全員喫食の給食が実現することを願っています。</p>
桜井会長	<p>ありがとうございました。皆さん、ご専門とかお立場がそれぞれさまざまですので、いろんなご意見をいただいて、相互に参考になったかと思う</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局 (西村)	<p>んですが、中学校の子どもに美味しいご飯を食べさせたい、健康的な食事をとらせたいという思いは共通しているのかなというふうに思いました。</p> <p>とはいえ、最後にもお話しいただいたように、現場の先生方のところで実際に開始したときにどのように運営していくかとか、あるいは生徒の指導が、小学校から給食があるのでそのままいけるのかななんて私は簡単に思っていたんですが、やっぱり思春期で大変な時期ということもあるので、やっぱりお考えをいろいろいただかないと難しいというところがお聞きできてよかったかなと思いました。</p> <p>そうなってくると、ちょっとこの会議の後のことになるので、先走りではあるんですが、いつにこれが実現するんだろうなというところまで思いを馳せてしまいました。センター方式だと、用地取得が入ってくるのでちょっと遅くなったりもするのかとかも思ったりしました。とはいえ、今年度1年かけて話していくところでの決定した後になってくると思いますので、ひとまずは、この審議会で皆さんにおつき合いいただければと思います。</p> <p>それでは、事務局に返します。</p> <p>そうしましたら、本日の会議はこれで終わらせていただきたいと思います。</p> <p>本日の会議録につきましては、事務局で会議録を作成させていただきまして、桜井会長のご確認いただき公表させていただきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いたします。</p> <p>次回の第2回審議会は7月19日(金曜日)午後2時から、場所はクリエイトセンター301号室となっております。お忙しいとは思いますが、ご出席のほうよろしくお願したいと思っております。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p>〔閉会〕</p> <p style="text-align: right;">以上</p>